



TITLE:

通貨収縮の急務

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 通貨収縮の急務. 経済論叢 1919, 9(4): 568-584

ISSUE DATE:

1919-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/127579>

RIGHT:

時事問題

通貨收縮の急務

戸田 海市

一 兌換券増發と物價騰貴

戰爭終熄後一時世界の物價は低落せんとしたが、最近更に騰貴の傾向を示すに至つた。是れ戰爭の爲めに歐洲諸國の生産力の傷けられた程度か豫想以上に甚しく、其恢復の容易ならざるのみならず、國と國との戰爭の終熄は各國内に於ける階級戰の開始に變して、現存せる生産力の重要部分か絶へず其活動を妨けられ、之か爲め物資の缺乏は往々にして戰時以上に甚しきを告ぐる所あると同時に、各國の政府は通貨收縮の餘力を有せざるは勿論、戰爭の跡始末と社會的不安とに應ずる爲め益通貨を膨脹せしめつゝあるからである。此の如き事情の下に於て戰時に制定した價格制限及消費制限や輸出禁止を少しく緩めんとすれば忽ち物價の騰貴を生ずるは當然である。然るに今日物價を騰貴せしむることは社會的不安を激成することゝなるから、最近に各國は更に物

價調節に力を注ぐに至つたが、既に一方に於て急に物資の供給を増加することも、通貨を收縮することも困難であるとすれば、其物價調節の主たる方法が價格及消費の制限や暴利取締の如き政策的の應急手段に出づるは已むを得ないのである。只た歐洲諸國と事情を異にする米國は物價を調節する爲め一面に軍用品拂下と輸出制限とを行ふて供給の増加に努め、他面に暴利取締を行ひ、通貨の收縮は行はない方針であるとのことであるが、是れ米國は既に金の輸出を許し、貿易の自然作用に由つて過度の通貨の流通を根本的に防止して居るからである。若し米國にして更に其れ以上に通貨の收縮を行はんとすれば、是れ世界の平均以下に自國の物價を人爲的に引下けんとするものであつて、其結果は後に論するか如く甚だ不利たらざるを得ない。

我國の物價も戰爭の終熄と共に一時低落に向つて再び騰貴に轉し、其騰貴の程度は英國よりも強くして遙かに米國を凌いで居るか、此物價騰貴と共に兌換券の流通が大に増加しつゝある。元來我國は英佛の如く通貨の膨脹を餘義なくせられて居るのてないから、此際物價を調節せるには先づ通貨收縮を斷行せねはならぬ。然るに現政府當局者は通貨膨脹に關し豫てより特種の見解を有し、世間の需要に應じて兌換券を増發することは産業の發展に必要にして、又物價騰貴の原因となるものにあらず、今日の通貨膨脹は物價騰貴の原因にあらずして寧ろ其結果なりと云ふか如き説を主張して居る。此説は既に學界及實際界より批評し盡されたやうであるから、予輩は之に對

して單簡に一言するに止める、當局者の此説は理論上制限せられたる範圍に於て眞理であるが、決して無制限の眞理ではない。特に今日の如く兌換の自由と金の輸出の自由とを奪ひ、事實上兌換券をして不換紙幣たらしめて居る場合には、此説の適用が極めて制限せられるを得ない。又今日の實際より見れば當局者の此意見こそ實に物價騰貴と通貨膨脹との重大原因を爲して居る。當局者にして世間の需要さへあれば自由に兌換券、否な紙幣を發行して可なりこの方針を持する以上は、世人が不謹慎に信用を膨脹することは避け難き勢である。今日一般文明國に於けると同じく我國に於ても信用通貨が取引上重要な地位を占め、従つて直接に物價騰貴を生ずる所の通貨膨脹と云へば、主に信用通貨の膨脹を意味するものであるが、此信用通貨の膨脹を永く支へんとすれば必らず現金通貨を増加せねばならぬ。如何に諸事業の前途が有望なりとて銀行は無制限に貸附を増加することは出来ぬ。貸付の増加及之に伴ふ預金増加に従ふて手許準備金を増加するの必要を感じ、紙幣の増發を要求するのである。若し此際當局者か紙幣の増發を差控へる方針を探り、特に金利を充分に引上げて其増發を抑へる方針を探つたならば、銀行も貸出を制限するの已むを得ざるに至るのである。今日の如く世人が前途樂觀に傾ける際に於て、貿易資金の融通たると内地取引資金の融通たるとを問はず、當局者か世間の需用に應じて寛大に紙幣を増發するの方針を發表すれば、世人は安心して其樂觀的計畫の遂行の爲めに信用取引を膨脹することとなるが

當局者にして此信用の膨脹を支へる爲めに必要となつた紙幣を自由に増發するとき、世人は多
多益信用取引を膨脹し、従つて更に紙幣増發を爲さるを得ることとなる。此の如き際に紙幣
を増發すればするほど世人は紙幣の不足を訴ふる結果となるのである。飲酒家に對して一家の主
婦が自由に酒を供給するの方針を採り、之をして常に泥酔せしめて置くことを批難せられた場合
に、若し其主婦にして酒の要求あるか故に之を與へたるに止まり、強て飲酒せしめたるにあらず
と辯解して得々たれば、世人は此主婦を非常識者として取扱ふてあらう。政府當局者の紙幣増發
に對する辯解は頗る之に類似して居る。

二 物價調節の必要

物價を騰貴せしむることは債權債務の内容を外部より變更して、汎く社會各方面に於ける財産
關係を攪亂するものであるが、特に資本家と労働者との分配割合を労働者に不利益に變更すると
云ふ社會的弊害を生ずる。故に社會的不安の甚しき今日は各國共に物價騰貴に對して非常に神經
鋭敏となつて居るに係はらず、獨り我國か物價騰貴に對して平然たるは驚くべきことである。或
は物價騰貴は好景氣を生じ、従つて労働に對する需用を増加するから、物價騰貴と共に勞銀を増
加して行けば何等の社會的弊害を生ぜずとの説もある。假りに勞銀の増加か物價騰貴と歩調を一

にするか如く圓滑に行はれ得るものとしても、更に考ふべきは物價騰貴に由り過度に景氣を煽るときは、後日恐るべき反動を生じて資本家を害するのみならず、労働者を失業せしむるの危険がある。又物價が騰貴すれば世人が投機に熱中し、成り金の輩出を見るに至るのであるが、成り金の發生ほど私有財産制度の信用を害するものではなく、着實の實業家は何れも之か爲めに無形の迫害を蒙むらざるを得ない。苟くも私有財産制度を存續する上は、之をして生産上社會に貢獻したる眞面目の努力に對し正當の報酬たるの意義を有せしめねばならぬのであるが、物價騰貴の際には私有財産か此の如き嚴肅なる意味を失ふ場合を生ずること多く、之か爲めに社會的不安を激成することゝなる

物價騰貴に伴ふて迅速圓滑に勞銀の増加が行はれるならば、労働者の不利も少ないのであるが、併し實際に勞銀の増加は同盟罷業の如き紛擾を生じ、資本と労働との間の反感を強めた後に初めて或程度に行はれ得るに過ぎない。物價騰貴の利益は總ての事業に對して均等に波及するものではなく、中には全く利益せず又は損害を蒙むる事業もあつて、此種の事業に於ける勞銀増加の實行難を生ずるは避け難い所であるが、併し非營利的の政府事業が物價騰貴の利益を受けざることを理由として、其労働者に對し勞銀の増加を躊躇するか如きは甚だ誤つて居る。今日文明國の政府が社會政策を行ふには、單に法律を制定して民間の雇主に労働者待遇の改善を命ずるを以て足れり

とせず、政府事業に於て役員労働者を使用するに方り其待遇を模範的にし、以て民間の雇主を率ゆると云ふ重大の任務を有して居る。普通労働者に付て見るも政府は一國に於ける最大の雇主であるから、之を模範的に待遇することは單に民間雇主に對して無形の指導的效果を生ずるに止まらぬのであるが、更に役員階級に付ては政府の之を使用する割合が甚た大であるから、政府が良好の條件を以て採用することは競争上民間に於ける役員階級の待遇改善を強制するの効果がある。而して政府が此の如く模範的待遇を行ふの責任を盡さんとすれば、物價騰貴に際して迅速に俸給勞銀の引上を行はざるを得ざるは勿論である。我政府が果して此點に付て覺醒せるやは疑問であつて、戦争以來の経過を見れば、政府は寧ろ民間に對して後れ勝てある。只た政府が事業を行ふには嚴重なる豫算の束縛があつて、物價騰貴に伴ひ迅速に其の使用する役員労働者の待遇を改善し難きことは事實である。故に政府にして其重大の責任に反して自から社會的不公平を行ふことを避けんとするは、成るべく物價騰貴を生ぜしめざる方針を採らねばならぬ。

經濟界の人氣が沈衰して資本は活用せられず、又労働は失業に苦しむか如き際には、一國の金融政策も成るべく寛大の方針を採つて人氣を引立つることを適當とするが、今日の我國は之と正反對の方針を採らねばならぬ理由が上述の外に尙ほ二つある。先づ戦争中は世界的の物資缺乏の爲めに我國は如何なる物を生産しても有利に販賣することを得た。従つて諸事業は徒らに數量的

に膨脹したが、其實質は甚だ貧弱なるを免れない。故に幸にして先進諸國の秩序が恢復して平時經濟に移ることか出来たならば、我か新興の諸事業は忽ち其競争に壓倒せられる危險を有する。

故に今日の我國は戰爭中に得たる利益を投して諸事業の内容を充實することを急務とする。然るに今日の如く物價騰貴を繼續せしめ、従つて事業の内容を充實せざるも尙ほ能く多大の利益を擧げ得る状態に在らしむるときは、世人は進んで内容の充實に努力せず、争ふて數量的外形的膨脹に熱中することは已むを得ざる勢であるが、此事たる後日に至り大々的反動を生ずるの危險を有することか明かである。若し政府にして徒らに財界の人氣取りに腐心せず、眞に事業の進歩を圖らんとすれば此際決して放慢なる金融政策を採つて物價騰貴を助長してはならぬ

願はれは歐洲戰爭の初まつた頃までは我國の貨幣制度は實際に破産状態に陥つて居た。日露戰爭後外債政策に由り物價を騰貴せしめた結果は年々輸入超過の増大を來し、此貿易上の債務と外債の元利支拂との爲めに政府は絶へず外債募集を繰返して一時を彌縫したことは、恰も遊蕩兒か借金利息拂の爲め新たに借金するか如き狀を呈した。實に我政府と國民とは自主自制の能力を缺き、危機の目前に迫り來るも之を避くるの手段を探ることに躊躇したが、遂に事實上外債募集か殆んど不能となつて初めて餘儀なく通貨緊縮方針に轉した。只た國民か此緊縮方針の下に大に忍苦奮闘するの責任は戰爭の勃發に由り突然解除せられ、國民は殆んど勞せずして多大の輸出超過

を來たし、之か爲め成金的に巨額の在外正貨を有するに至つた。克己自制の能力の乏しき我國が斯くして今日巨額の在外正貨を所有することは、實に國民をして日露戰後に於けるよりも一層大なる誘惑に陥らしむるものである。前には我國が放慢なる金融政策を繼續する爲めには非常の手數を掛けて外債を起すの必要があつたか、巨額の在外正貨を所有する今日に於ては何等の苦痛なくして能く放慢なる金融政策と物價騰貴とを支へることが出来る。戰時中の成金氣分は今尙は社會の各方面に漲つて居るから、或は此の巨額の在外正貨が消滅するまでは、我國民は到底健全なる金融政策を探ることか出来ぬかも知れぬ。在外正貨の空しく消散して我國が依然國際上の債務國として残ることは尙ほ忍ふへしとしても、放慢なる金融政策の繼續か我國の社會思潮を益險惡ならしむるの大害を生ずることは到底吾人の忍ぶ能はざる所である

三 通貨收縮の程度

通貨收縮に由り物價を調節するに付ては、如何なる程度に之を行ふべきやの標準がなくてはならぬ。我國は主要の原料や食物の一部を外國より輸入し、製品の少なからざる部分を輸出することとに由て國民の生活を支へることを必要とする。故に我國の物價は重要な貿易關係を有する世界諸大國の物價の平均と成るべく一致することを要する。若し我物價にして此平均以上に在るとき

は多數の輸出事業の不振を來たして其從業者の生活難を生すべく、又若し此平均以下に我物價を引下くるときは、生産に必要な原料や機械の輸入も食物の輸入も困難となり、一面に各種の生産物は過度に多く輸出せられて國內の物資缺乏を甚しからしめ、之か爲め物價は忽ち騰貴せざるを得ない。此場合に強て物價引下策を維持せんとすれば全般的の輸出制限を行ふの必要を生し、之か爲め國民の生活及産業の安定を目的とする物價調節は全く其目的に反する結果を生せざるを得ない。戰前世界の通商の自由であつた場合にも尙ほ我國の如きは不當の外債政策に由て物價を久しく此標準以上に保つたのであるが、今日は米國以外の諸大國は我國と共に貨物及金銀の輸出入に大なる制限を加へ、以て貿易に由る物價平均の自然作用を攪亂して居るから、我物價を適當の地位に保たんとすれば放漫不規律の金融策を採つてはならぬ。而して我か一般物價を此標準に合致せしむるときは、特種の必要品にして輸出又は輸入の過不及を生し、以て國民の生活及産業に不利を來たす場合か起る。故に此種の特定貨物の輸出入に對しては特別の制限又は促進を行ふことを必要とするは勿論である。

然らば今日の我物價の騰貴は世界諸大國の物價騰貴に追隨したるものなりや、又は其れ以上に進みつゝありやを知らねはならぬ。若し世界の大勢に追隨する程度のものであるとすれば、通貨收縮に由る一般的調節を行ふことを止めて、國民の生活及産業に重大關係を有する特種貨物に對

し特別の調節を行はねばならぬ。通商自由の平時に在ては一國の物價平準か、世界的平均に合致するや否やは、其輸出入が稍久しきに亘りて均衡を保つや否やに由て見ることも出来る。又以前に英國は商品及貨幣に付て全然自由開放を行ひ、且つ世界通商の中心を爲して居たから、英國の物價指數の高低に由り略は世界的平均の高低を知ること出来たが、今日の英國は事情が一變して其物價も國內限りの效力を有する不換紙幣に由り左右せらるゝ有様であるから、之を標準として我國の物價を率することを得ない。只た世界に率先して金の自由輸出を斷行せる今日の米國は世界通商上最も重要な地位を占め、保護税の程度も近來大に緩和せられた上に、輸出入の制限も他の諸大國に比すれば頗る自由であるから、米國の物價指數の高低は大體に於て最も能く世界的平均を反映するものと見て差支ない。此の米國の物價指數と我國の夫れとを比較するに、戦前と今日との比較に付ても、又戦争終熄期と今日との比較に付ても、我國の騰貴率は大に米國を凌駕して居る。英國の物價指數は米國よりも稍高く、佛國の指數は不明であるが恐らく我國よりも幾分大であらう。只た英國の貨幣相場は既に一割以上下落を示し、佛貨に至つては三割内外の下落を示して居るから、世界貿易の上より見れば佛國の物價すら我國の夫に比して餘り高くはなく、英國の物價は米國の夫れと略は同地位に立つて恐らく我國よりも二割近く低きに居ることとなるであらう。現に我國の貿易が本來輸出超過を見るへき下半年に入るも尙ほ可なりの輸入超過を繼

續しつゝあることは、假令之を平時に於けるか如き確實の標準とするを得ないとしても、我物價か世界の平均以上に進みつゝあることを示すものと解釋することか出来る。果して然らば我國の物價調節は單に今後の騰貴を消極的に防止するを以て足れりとせず、更に進んで徐々に引下を行ひ、之をして米國の指數に近かしめ、又我輸出入の均衡を得せしむるまでに進まねばならぬ。固より今日の我國は戰爭以來の對外投資に由り能く外債上の債務と相殺した上に、船舶運賃其他の收入即ち無形輸出の受取勘定を有するから、二三億の輸入超過となることは敢て憂ふるに足らないが、併し目下の物價調節の標準としては輸出入の均衡を保たしむることに注意せねばならぬ。此注意を怠つたならば我物價は鰻上りに上つて遂に在外正貨を消散するまでは社會的不安を激成するを顧みさることゝなるであらう。

今後の物價騰貴を防止することすら大に政府及國民の努力を必要とするが、更に物價調節の程度を強めて相當に之を引下くるに付ては官民共に大覺悟を必要とする。固より急激に物價を引下けて一般の不景氣を惹起し、之か爲め少數の役員階級の實所得を増加するも多數勞働者をして失業せしむるか如きは、生活の安定の爲めに行ふ物價調節の目的に反するから、物價の引下げは徐徐に進行するの外はない。既に之を徐々に行ふことを必要とする上は、目下の急に應ずる爲め種種の日用品に對して特別の調査を行ふの必要なるは勿論、一面に俸給勞銀の不充分なる者に對し

ては官民共に寛大の精神を以て之を増加せねはならぬ。而して近き將來に於ける我經濟界の形勢を見るに、歐洲諸國の經濟的恢復は豫想外に困難であり、従つて我國の輸出は幾分か物價騰貴に由て妨けらるゝも、先進國の競争に由て強く壓迫せらるゝことなかるへしとの一般の見込か先づ人氣を樂觀に傾かしめ、加ふるに内地に於ては農民の購買力が非常に増加して好景氣の重大原因を爲して居るが、假りに本年の米作が大豐作となつても、世界的食物の缺乏の爲め劣質の外米すら非常の高價を維持する今日に於て、米價の暴落に由る田舎の不景氣は當分起らざるへしとの見込も強く、従つて輸出の上に多少の故障が起つても經濟界は殆んど不安動搖を感じない。此の如き人氣の下に於ては現金通貨を收縮するも其割合に信用通貨は多く收縮しない。通貨收縮に由て物價を調節するには此點にも大に注意せねはならぬ。

世人は往々通貨を收縮して物價を調節すると云へは、其程度の大小緩急を問はず常に經濟界の不景氣を招き、之に由て利する者は地位の安固なる役員階級中の少數者にして勞働者は一般に勞銀の下落及失業に苦しむものゝ如く信するが、經濟界の活氣と云ふことには健實なる進歩と浮調子の投機的繁忙との別があり、一國の生産に必要にして又眞に勞働者に職業を與ふるものは投機的繁忙ではない。例へば戦争以來の好景氣及物價騰貴の徑路を見ても、一般生産者が商人に賣渡した後に商人が思惑を立てゝ相場を釣上げることが多い。勞働者に職業を與ふるものは割合に安

く賣つた生産者であつて、利益の主なる部分は比較的少數の商人の手に歸して居る。實に戰爭以來絶へず兌換券の増發せられたことは、一方より見れば主に此少數商人の思惑を支持する爲めに行はれた觀がある。故に此の如き事情の下に物價調節を行ふと云ふことは、通例少數商人の思惑を抑へることであつて、労働者と共に生産に従事しつゝある一般生産者に打撃を加へることは極めて少ない。一國の通貨及商品は投機取引の爲め徒らに人々の手に轉々流通する部分を成るべく少なくして、之を眞面目な生産者の手に成るべく多く集めることか、通貨及商品を資本化するに必要であつて、此方法を有効に行ふたならば生産増加の爲め物價は當然に緩和せられる。然るに物價騰貴に惑されて經濟界が投機的に傾いて居る場合には、徒らに投機取引の爲めに占領せらるる通貨及商品の部分が大となつて、生産の増加と物價の低落とを妨けられる。物價調節の程度に付て今後の騰貴を防ぐことゝ、現在の物價を相當に引下けることゝの間には理論上差異があるが調節實行の上より云へば上述の如く物價騰貴を防ぐ程度に調節して人氣を健實にすれば、一面に生産の増加が起つて自然に幾分の物價低落を來たす傾向がある。又我國の今日の事情より云へば物價を騰貴せしむれば人氣が引立つやうであるか、一面に社會的不安が甚しくなつて、人氣の動搖と同盟罷業の發生との爲めに生産の増加が妨けられ、従つて經濟界が活況を呈すると云ふも其實は投機的繁忙又は空景氣となるに反し、物價の騰貴を抑へれば社會的不安に由る生産上の妨害

か除かれ、自然に物價を緩和することとなる。

四 通貨收縮の方法

通貨を收縮する爲めには日本銀行の金利引上の外に、政府が公債募集及郵便貯金増加に由得たる資金を再び國內に支出せず、多少利息の損失を忍びても之を外國に投下することや、兌換制度維持の直接責任者にして且つ在外正貨を兌換準備に繰入るゝ例外的利便を享受しつゝある日本銀行か、利息附預金を設けて兌換券を流通より引上ぐることや、貿易手形引受制度に由り貿易金融を民間金融業の資力を以て行ひ、成るべく之をして兌換券増發に依頼せしめざることの如き、種々の方法が主張せられ、又其一部分は既に實行せられつゝあるが、從來此等の方法を行ふに方り成るべく一般金利を引上げざる範圍に實行するの方針を探り、従つて理論上通貨の過剰を生した場合に之を回收して物價の騰貴を防止するの效力あるも、更に進んで物價を引下ぐる效力はないのであるが、實際上より云へば金利の騰貴を生ぜざることを條件として此等の方法を行はんとすれば、物價騰貴を防止することすら困難である。何となれば經濟界の人氣が今日の如く樂觀に傾くときは、投機的の起業及取引が累進的に増加して金融は益繁忙を加へ、従つて金利も騰貴的傾向を有することとなるから、此間に在て通貨の收縮は時々金融界の小康を呈する機會に乗して

小規模に行はれ得るに止まり、結局は兌換券を回収した以上に之を増發して金融界の要求に應ぜざるを得ないからである。故に有効に通貨を收縮する爲めには金利引上以外の方法をも行はねばならぬが、此等の方法を行ふに方つては多少金利の騰貴することを避けてはならぬ。又一方より云へは今日の通貨膨脹は在外正貨を兌換準備に繰入るゝに付て放慢であつた爲めである。故に政府は在外正貨の運用に付て今後は慎重の態度を探り、日本銀行をして通貨收縮の已むを得ざるに至らしむることを必要とする。日本銀行か此必要に迫られざる限りは有効に通貨收縮策を行ふことか甚だ困難である。

物價調節を有効に行はんとすれば金利の騰貴を生ずることを避くるを得ざるは上述の如くてあるが、今日我國の金利引上は不景氣を招くか故に不當なりと云へる既説の反對論の外に、對外投資を妨ぐるの弊ありとの反對論がある。併し乍ら從來の如く物價騰貴を自然に放任し、否な之を助長するの方針を採るときは、投機的の起業及取引の爲め金融の繁忙を來たし、又多くの事業は物價騰貴の爲め法外の利益を生ずることゝなるから、世人は決して對外投資を顧みず、又對外投資の爲めにする政府の公債募集も甚だ困難とならざるを得ない。我國か如何なる種類及範圍の對外投資を行ふことを正當とするやに付ては本誌前々號に之を概論したが、政府の手に由ると私人の力に由るとを問はず、對外投資を行はんとすれば、從來の如く物價を騰貴せしめて過度に景氣

を煽つてはならぬ。此際有効に金融を引上げることか聽て金融の緩和を生じ、以て緊要の對外投資を行ふことを容易ならしめるのである。

通貨收縮に由り物價を調節する場合には、從來放緩なる金融政策の下に於て特に投機取引の目的となりし商品は他の商品に比して強く下落すると云ふか如き例外はあるが、大體に此調節策の効果は略ぼ均等に一般商品に及ぶものである。故に生活及産業に必要にして諸物價以上に騰貴せるものに對しては特別の調節を行はねばならぬ。此特別の調節を論することは本文の目的とする所ではないが、此種の調節か一般的調節に重大關係を有する場合に付て茲に一言せねばならぬ。

一般物價に比して更に三四割の騰貴を示せる米は日用品中の最も重要なものであるから、米の一品に對して有効に調節を行へば國民多數の生計の壓迫は大に緩和せられる、他の重要品の取引に比して米の取引は幾倍の大量であるから、米價か調節せられて一般物價指數の程度に下つたならば、其取引より解放せられて銀行に回收し得る通貨の量は非常の巨額となる。特に注意すべきは米價の特別の騰貴の爲め農民の取引上の地位か特に強硬となり、従つて農民の手を通して供給せらるゝ麥其他の穀類、野菜、薪炭、木材等の日用品も供給の割合に其價か強く騰貴するの傾向を有して居る。故に米價か調節せられたならば此等の日用品も自然に低落を生じ、之か爲め取引より解放せられて回收の可能となる通貨の量は益大となる。目下輸出貿易は以前の如く好況でなく、

特に支那の日貨排斥の如きは相當に大なる影響を輸出の上に及はせるに係はらず、經濟界の人氣が依然樂觀して投機的傾向を棄てず、之か爲め諸物價の騰貴か益甚しからんとするは、主として米價高に由りて田舎か特別の好景氣を呈する爲めである。一面より云へは貿易の狀況の良好ならざる今日に於て依然通貨の膨脹の繼續するは、米價の特別の騰貴の爲めに巨額の通貨か其取引に占領せられて居るからである。従つて米に對する特別の調節を行はすして通貨收縮と云へる一般の調節を有効に行ふことか甚だ困難であるか、之と同時に米價を調節して巨額の通貨を其取引より解放し乍ら、一方に通貨收縮を行はなかつたならば、解放せられたる通貨の一部分は他の諸貨物の取引に轉用せられて物價指數は容易に下らず、之か爲め農民か特に不利益を蒙むるの結果とならざるを得ない。而して一般物價の騰貴程度まで米價を引下くることは決して農民を苦しめて田舎を不景氣に陥らしむるものでなく、従つて之か爲めに都會の不景氣を來たすものでもないから、政府は次年度の米價に對しては適切なる調節を行はねはならぬ。